

平成31年度  
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)  
 成果報告書

団 体 名	公益財団法人宗像ユリックス	
施 設 名	宗像総合市民センター	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	13,949	(千円)
公 演 事 業	10,018	(千円)
人 材 養 成 事 業	1,968	(千円)
普 及 啓 発 事 業	1,963	(千円)

# 1. 事業概要

## (1) 平成31年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	すくすくワンコイン コンサート(3公演)	6月8日、9月14日、 3月7日	①村岡慈子ほか打楽器5人編成 ②デュエットウ ③中島千智ほか3名	目標値	1,130
		ハーモニーホールほ か		実績値	731
2	九管ポップス ファミリーコンサート	8月24日	オリタノボッタ(指揮)、九州管楽合 奏団、さえきまゆこ(歌)、 いとうまゆ(ダンス)	目標値	500
		ハーモニーホール		実績値	693
3	宗像ユリックス室内楽シリーズ「シ ョパン VS リスト ピアノの巨人たちの肖像」、 「folkハルトシュティデ」	7月15日、1月18日	① 金子三勇士(Pf)、浦久俊彦(ナ ビゲーター) ② folkハルト・シュティデ(vn)、 三輪郁(Pf)	目標値	800
		ハーモニーホール		実績値	845
4	宗像ミアーレ音楽祭 「名曲を旅する ～大作曲家が遺した心の音～ ＜室内楽編＞」 「名曲を旅する ～大作曲家が遺した心の音～ ＜オーケストラ編＞」 「九響と散策する名曲の小径」 (事業中止)	6月9日、7月6日、 9月23日(事業中止)	<6月9日 室内楽編> 白石光隆(Pf) 九州交響楽団(8名)  <7月6日 オーケストラ編> 白石光隆(Pf) 九州交響楽団(42名)	目標値	1900
		ハーモニーホール		実績 値	964
5	宗像ミアーレ音楽祭 「ミアーレ・ジュニア合唱団 コンサート」、「市民ステージ」 【事業中止】	9月22日、23日	①公募による市内小学生86名、 (アルケミストスペシャルゲスト) ②市民演奏家	目標値	2,650
		ハーモニーホールほ か		実績値	0
6	ベルリン・コンツェルトハウス 室内オーケストラ	12月8日	ベルリン・コンツェルトハウス 室内オーケストラ (コンサートマスター日下紗矢子)	目標値	450
		ハーモニーホール		実績値	264
7	ウィーン・シェーンブルン宮殿 オーケストラ	1月11日	ウィーン・シェーンブルン宮殿 オーケストラ	目標 値	500
		ハーモニーホール		実績値	493
				目標値	
				実績値	
				目標	
				実績	

(2) 平成31年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	吹奏楽部生の演奏力向上と交流促進による吹奏楽活性化事業 「吹奏楽コンクール課題曲コンサート」	5月26日 イベントホール	以下、指導&演奏 ①村岡淳志(宗像ユリックス吹奏楽アドバイザー) ②九州管楽合奏団(35名)	目標値	1,430
	吹奏楽部生の演奏力向上と交流促進による吹奏楽活性化事業 「奏法指導・合奏指導」 (冬季3校は新型コロナウイルスの影響により中止)	夏季5日、 冬季2日 市内各中学校吹奏楽部	①村岡淳志ほか7名		
	吹奏楽部生の演奏力向上と交流促進による吹奏楽活性化事業 「ミアーレ吹奏楽団500人コンサート」	11月24日 イベントホール	市内中学校吹奏楽部/ユリックスジュニアプラス/市民吹奏楽団/ブラックボトムプラスバンド/九州管楽合奏団(12名)	実績値	1,549
	吹奏楽部生の演奏力向上と交流促進による吹奏楽活性化事業 「アンサンブルクリニック」	11月17日 市内各中学校4校	村岡淳志		
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	



## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p> <p>宗像ユリックスが社会の機関として認知され永続的に存続するために、常に社会を見つめ社会課題解決に向けての取組みを継続的に実施する必要があると考える。宗像ユリックスを取り巻く社会環境の中で人口動態という将来の変化（人口減少）が最も大きな影響を及ぼすと想定される。人口減少社会に進んでいく中で、将来の宗像ユリックスを支える顧客創造に取り組んでいく行く必要があることから、以下のミッションを掲げて取り組んでいる。</p> <p>ミッション：子育て・教育分野への継続的・体系的な事業展開による地域活性化と顧客創造 具体的な取り組み：子どもの成長段階にあわせた事業展開「スマイルキッズプログラム」</p> <p>【平成 31 年度の取組み】</p> <p>子育て・教育分野への継続的な・体系的な事業展開に加えて、他年代層を対象とした事業もバランスよく実施した。実施に当たっては、「質の高い実演芸術の創造・提供」、「市民の参加と創造」、「社会課題の解決」という目標に対し、プロセスを踏みながら事業を進めた結果、ホールを支える顧客の創造につながり始めていると考える。一例をあげると、「スマイルキッズプログラム」の導入的役割を果たす「すくすくワンコインコンサート」は、一部新型コロナウイルスの影響も見られたが、順調な顧客の受容に加えて、他の事業への参加などの波及効果も見られ始めており、継続顧客から支持者への育成につながっている。また、「質の高い実演芸術の創造・提供」と「市民の参加と創造」という大きな役割を担った「宗像ミアーレ音楽祭」が台風の為に中止となるなど、残念な結果となったが、その他の事業については、計画通りに実施できた。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <p>【文化的意義】</p> <p>地方において、子どもたちがプロの演奏者の生の音に触れる機会は都市圏と比較すると相対的に少ない。子どもたちが社会を生きていく上で必要となる感受性や想像力を育む機会を提供することは、劇場・音楽堂の責務であると考え、子どもの発育段階に応じた普及啓発事業と公演事業を計画的に、そして継続的に実施している。未就園児を対象としたアウトリーチ事業「すくすくコンサート」と「すくすくワンコインコンサート」、幼稚園・保育園、小学校を対象としたアウトリーチ事業「いきいき出前コンサート」と公演事業「九管ポップスファミリーコンサート」等の事業を実施しており、事業の連続性があり事業から事業への顧客の循環が生まれ始めている。</p> <p>【社会的意義】</p> <p>格差の連鎖などにより子どもの置かれている環境は厳しい。また、経済的貧困はなくとも人間的な貧困を抱えた子どもも少なからずいると考える。当館は、子どもたちの成長段階に合わせた事業を継続的に実施しており、当市が掲げる「子どもにやさしいまちづくりの実現」に寄与することで公共ホールとしての社会的な存在意義が示されていると考える。</p> <p>【経済的意義】</p> <p>補助を受けた公演事業 8 事業のうち、5 事業で「交流人口増・市外からの来場比率 40%」を指標として取り組んだ結果、最低値 47%・最高値 61%という結果となった。当館が取り組んでいる事業が広域で認知され、交流人口が増えることで地域の活性化に繋がればと考えている。</p>

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

#### ①目標に対する実績

	【共通の目標値】			【共通の実績値】		
	入場者数(人)	入場者率(%)	収益率(%)	入場者数(人)	入場者率(%)	収益率(%)
公演事業	7,930	80.5	34.3	3,990	40.5	26.6
人材養成事業	1,430	-	-	1,539	-	-
普及啓発事業	8,240	-	-	7,846	-	-

台風 17 号の接近により顧客・出演者の安全確保のため、公演事業 4「九響と散策する名曲の小径」、公演事業 5「ミアーレ・ジュニア合唱団コンサート」と「市民ステージ」が事業中止となった。また、事業番号 1「すくすくワンコインコンサート(3公演)」のうち、3月7日公演は、新型コロナウイルスの影響を受けた。

#### ②指標に対する実績

##### 【公演事業】

No	事業名	指標	実績
1	すくすくワンコインコンサート	交流人口増・市外からの来場比率 40%	61%
		新規来場者数 100 人	349 人
2	九管ポップスファミリーコンサート	アウトリーチから本公演入場者数 100 人	170 人
3	「ショパン VS リスト」ほか	交流人口増・市外からの来場比率 40%	57%
4	「名曲を旅する～(室内楽編)」 「名曲を旅する～(オーケストラ編)」 「九響と散策する名曲の小径」(中止)	交流人口増・市外からの来場比率 40%	57%
		アウトリーチから本公演入場者数 100 人	16 人
			事業中止
5	「ミアーレ・ジュニア合唱団コンサート」 「市民ステージ」	合唱団参加者数 100 人	事業中止
		市民ステージ参加者数 350 人	事業中止
6	ベルリン・コンツェルトハウス室内 オーケストラ	交流人口増・市外からの来場比率 40%	47%
7	ウィーン・シェーンブルン宮殿オーケ ストラ	交流人口増・市外からの来場比率 40%	50%
		ペアでの来場比率 60%	74%

##### 【人材養成事業】

1	吹奏楽部生の演奏力向上と交流促進に よる吹奏楽活性化事業	吹奏楽コンクール筑前地区大会金賞 2 校	3 校
		吹奏楽団 500 人コンサート入場者数 850 人	664 人
		アンサンブルコンテスト金賞 1 校	1 校

##### 【普及啓発事業】

1	すくすくコンサート	新規参加者数 200 人	55 人
		地域開催 6 回以上・地域の参加者 60%以上	7 回・6%
		母親を対象としたワークショップの開催	交流会 2 回
		アウトリーチと公演事業鑑賞者 200 人	114 人
2	いきいき出前コンサート	アウトリーチと公演事業鑑賞者 150 人(幼稚園)	170 人
		アウトリーチと公演事業鑑賞者 100 人(小学校)	110 人
3	わんぱくフェス	参加率 80%	62%

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか

#### ①公演事業

##### 【事業番号1 「すくすくワンコインコンサート」(3公演)】

6月8日・・・「JAZZ00!!」 9月14日・・・「PIANO MAGIC」 3月7日・・・「おとのえのぐ」

事業期間は計画通りに進捗。事業費についてもほぼ計画値となった。

##### 【事業番号2 「九管ポップスファミリーコンサート」】

8月24日・・・「九管ポップスファミリーコンサート」

事業期間は計画通りに進捗。事業費についてもほぼ計画値となった。

##### 【事業番号3 「宗像ユリックス室内楽シリーズ」】

6月2日・・・「浦久俊彦音楽講座」 7月15日・・・「ショパンVSリスト ピアノの巨人たちの肖像」

1月18日・・・「folkハルト・シュトイデコンサート」

事業期間は計画通りに進捗。収益率39.6%(目標54.2%)となった。

##### 【事業番号4 宗像ミアーレ音楽祭】

5月22日・7月3日・7月4日・・・「白石光隆アウトリーチ」

6月9日・・・「名曲を旅する～大作曲家が遺した心の音～(室内楽編)」

7月6日・・・「名曲を旅する～大作曲家が遺した心の音～(オーケストラ編)」

9月23日・・・「九響と散策する名曲の小径」(台風17号の影響により事業中止)

9月23日公演が台風の影響で公演中止となったが、それ以外については計画通りの実施。

事業費については、事業中止による影響を受け、収益率が悪化した。

##### 【事業番号5 宗像ミアーレ音楽祭】

8月31日・・・「アルケミストミニコンサート」

9月23日・・・「ミアーレ・ジュニア合唱団コンサート」(台風17号の影響により事業中止)

9月22日、23日・・・「市民ステージ」(台風17号の影響により事業中止)

台風の影響による事業中止となったが、経費については発生。

##### 【事業番号6 「ベルリン・コンツェルトハウス室内オーケストラ」】

12月8日・・・「ベルリン・コンツェルトハウス室内オーケストラ」公演

事業期間は計画通りに進捗。事業費についてもほぼ計画値となった。

##### 【事業番号7 「ウィーン・シェーンブルン宮殿オーケストラ」】

1月17日・・・「ウィーン・シェーンブルン宮殿オーケストラ」公演

事業期間は計画通りに進捗。事業費についてもほぼ計画値となった。

#### ②人材養成事業

##### 【事業番号1 吹奏楽部生の演奏力向上と交流促進による吹奏楽活性化事業】

新型コロナウイルスの影響で奏法指導・合奏指導の冬季6校実施予定が3校実施となった。

#### ③普及啓発事業

アウトリーチ事業については、派遣先の影響で一部開催日程の変更が発生した。事業費はほぼ計画通り。

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

#### (1) ミッション

- 宗像ユリックスのミッション：子育て・教育分野への継続的・体系的な事業展開による地域活性化と顧客の創造
- 具体的な取り組み：子どもたちの成長段階にあわせた事業展開（スマイルキッズプログラム）

子どもの貧困率の社会問題化や共働き世帯の増加などにより、親子間のコミュニケーション不足が起点となった「ネグレクト」等が社会問題化している。このことから、子育て支援策を地域でどのように実現していくかが問われているという時代認識から、子どもにやさしいまちづくり実現に向けた取り組みとして、アウトリーチ・ワークショップ・ホールコンサートからなる「スマイルキッズプログラム」を実施している。そして、この事業を長期的な視点を持って取り組むことで、公共ホールの使命を果たすとともに、顧客の受容促進とブランディングにつなげていきたいと考えている。

「スマイルキッズプログラム」の起点となる普及啓発事業「すくすくコンサート」は、地域のコミュニティセンターで毎月1回開催されており、40組の定員が満席となるなど定着している。その需要の高さを背景として、後援事業「すくすくワンコインコンサート」を年3回開催しており、事業と事業のつながりが生まれている。この事業の顧客層は未就園児とその母親が中心となっており、事業開始前にはホールが来館機会を提供できていない顧客層であった。このことは、「スマイルキッズプログラム」が、将来の当館を支える新たな顧客創造に向けた活動であり、貴重な経営資源になりうると考えている。

もちろん、当館は全ての市民のための施設であり、他年代層への事業についても計画的に実施している。

#### (2) オーケストラ普及に向けた取り組み（音楽監督の配置等）

平成25年4月より「宗像ミアーレ音楽祭」の音楽監督として今村晃（平成25年12月文化庁長官表彰）を起用した事業展開を行っている。子ども向けオーケストラ公演（年2回）、一般向けオーケストラ公演（年1回）、アウトリーチなどを計画的に実施し、オーケストラを支える顧客の育成に取り組んでいる。企画製作段階から当館スタッフとコミュニケーションを重ねることで、当館スタッフの企画制作能力の向上にもつながっている。

#### (3) 九州管楽合奏団との連携強化

当館は九州で唯一のプロ吹奏楽団「九州管楽合奏団」と平成18年に連携協力に関する提携を結んでいる。以来、年1回のホールコンサート、市内幼稚園・保育園でのアウトリーチを実施している。

その強みを活かして、吹奏楽を地域の貴重な文化資源として捉え、その活性化を目的として平成30年度より新たな事業をスタートさせている。

##### ■九州管楽合奏団との連携事業

- ①九管ポップスファミリーコンサート（年1回）
- ②市内幼稚園・保育園全園を対象としたアウトリーチ（約20回/年・九州管楽合奏団4～5名編成）
- ③市内中学校吹奏楽部を対象とした奏法指導・合奏指導（市内中学校5校・2回/年）
- ④吹奏楽コンクール課題曲コンサート
- ⑤ミアーレ吹奏楽団500人コンサート

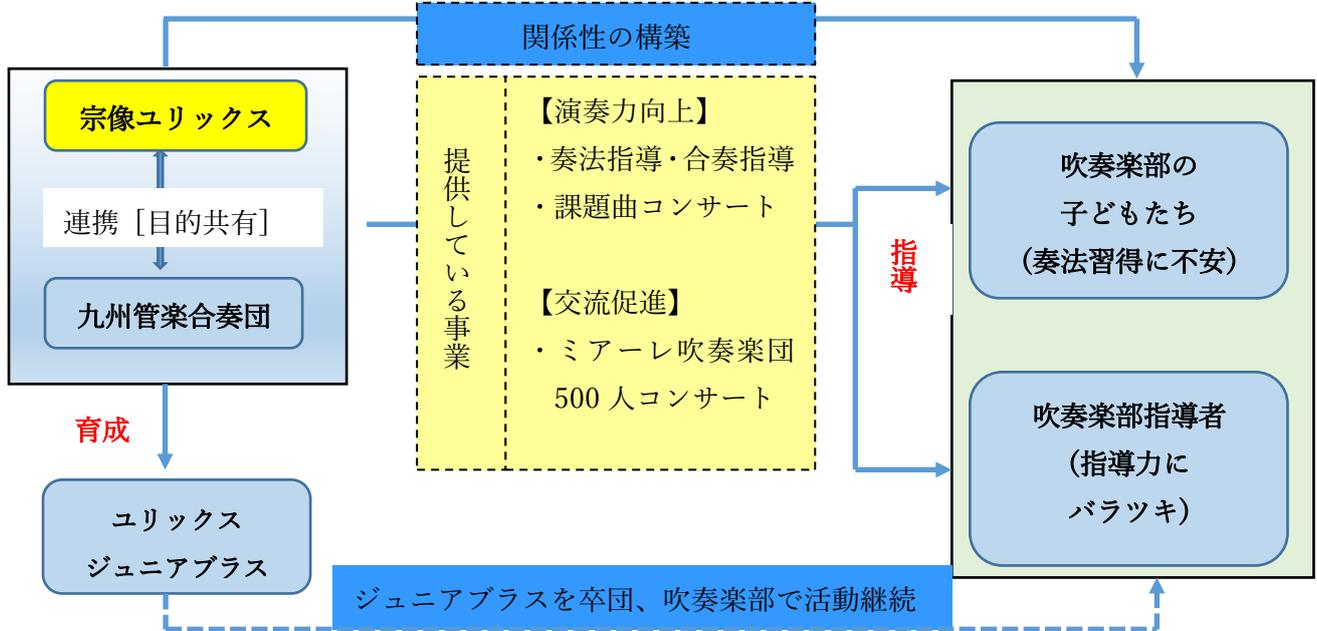
自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

(1) 吹奏楽活性化

当財団は、吹奏楽を地域の貴重な文化資源として捉えるとともに、九州で唯一のプロ吹奏楽団である九州管楽合奏団と連携協力関係にあるという強みを活かして、吹奏楽部生の演奏力の向上と交流促進による活性化事業を実施している。

■吹奏楽部生の演奏力向上と交流促進による吹奏楽活性化イメージ図



(2) 普及啓発事業による社会性・公共性の確保

公共ホールのあり方は時代と共に変遷し、現在では「芸術性」だけでなく、「社会性」が求められている。特に地方に存立する場合は、より「社会性」に軸足を置いた事業展開が必要であると考えられる。このことから、アウトリーチを継続的に実施することで、積極的に市民とつながることで公共ホールの存在意義を示している。

【補助を受けて実施したアウトリーチ事業】

事業名	対象	実施回数	入場者数
すくすくコンサート	未就園児とその母親	10	714
いきいき出前コンサート	市内の全ての幼稚園・保育園	24	3,530
いきいき出前コンサート	市内の全ての小学校・中学校	11	2,620

(3) 高い芸術性の確保とプロセスへの投資

普及啓発事業を積極的に推進する一方で、高い芸術性の確保についても時間をかけて取り組んでいる。地域に存立する公共ホールが高い芸術性を確保するためには、周辺での実演芸術家・団体が都市圏と比較すると希薄である事、また、都市圏から実演芸術家・団体を招くと旅費・宿泊費が負担となる場合が多い。しかしながら、置かれた環境に左右されずに高い芸術性を確保した公演を提供することが公共ホールの責務であるとする。

【平成 31 年度事業例】

・「名曲を旅する～大作曲家が遺した心の音～(室内楽編)」、「(オーケストラ編)」、「九響と散策する名曲の小径」の3事業を自主製作した。(管弦楽：九州交響楽団、ピアノ：白石光隆 )

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

#### (1) 文化事業を担う人材

氏名	職位	業務内容	勤続年数
A	中核職員	文化事業統括	9年
B	専任職員	広報業務	11年
C	専任職員	企画運営	7年
D	嘱託職員	企画運営	6年
E	嘱託職員	企画運営	5年
F	嘱託職員	企画運営	5年

※B及びCは、嘱託職員を経験の後、専任職員として登用。勤続年数は専任職員として登用後の年数。

※D(嘱託職員)は、H26年に採用。福岡教育大学大学院で声楽を専攻。

※E(嘱託職員)は、H27年に採用。福岡教育大学大学院で美術を専攻。

※F(嘱託職員)は、H27年に採用。福岡教育大学大学院で音楽学を専攻。

#### (2) 人材育成状況

文化事業に関わる人材は、文化芸術がもつ、豊かな人間性を涵養し感性を育むなどの「本質的価値」と、人々が共に生きる地域社会の基盤を形成するなどの「社会的価値」を理解することが必要と考える。

特に、地方に存立する公共ホールで文化事業を担う人材は、「専門性」に加えて、「地域性」熟知しマネジメントするスキルを身に付ける必要がある。

当財団は、平成30年度実績で、公演事業・普及啓発事業・人材養成事業などの主催事業約200公演を実施している。そうした環境の中で、地域の人々とつながることで生まれた共感力をベースとした事業展開が始められており、「地域性」を熟知した人材へと育成が進んでいる。また、職員の企画制作能力の向上を背景として、アーティストとのコミュニケーションが以前にも増して密になることで、「専門性」の習得にもつながっている。このことは、組織が文化事業担当職員をクリエイターとして処遇することで、職員の自己実現の場としての存在感が高まり、人材の養成と組織の存続につながると考える。

#### (3) 年度別収支状況

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
指定管理料	368,828	368,828	368,828	368,828	367,328
事業収益	237,535	235,572	252,280	246,065	250,221
経常収益計	606,426	604,467	621,172	614,934	620,818
経常費用計	596,649	604,216	615,500	616,913	628,000
経常増減額	9,777	251	5,672	-1,979	-7,182

平成30年度については、開館30周年記念事業を実施したため、▲7,182千円となっているが、その他の年度については、ほぼ問題のない決算ができている。